

【概要版】滋賀県CO₂ネットゼロヴィレッジ推進方針 ～生活に溶け込んだCO₂ネットゼロによる農村地域の活性化に向けて～

第1章 はじめに



滋賀県は持続可能な開発目標（SDGs）を支援しています。



<策定の趣旨・背景>

- ・滋賀県の農村地域では人口減少や高齢化の進行により地域コミュニティの衰退が危惧され、**地域資源を活用した地域振興**が重要。
- ・地球温暖化による気象災害が農作物や農地・農業用施設に大きな被害をもたらしており、**農林水産業においても環境負荷の低減**が必要。
- ・農村地域には太陽光や小水力などの再生可能エネルギーが潜在しており、これまでも再エネ設備を整備し、FIT（固定価格買取制度）の売電を進めてきたが、売電単価見直しや電気代の高騰を背景に今後は**再生可能エネルギーの「地産地消」**の取組が目ざされている。
- ・以上を踏まえ、次を基本理念とする、再生可能エネルギーの地産地消の取組を推進するための方針を策定する。

基本理念

◆ 環境に配慮した暮らしができる、魅力的な滋賀の農村づくり

- ・温室効果ガス排出量削減
- ・農村地域の魅力向上

◆ 災害にも耐えうる、エネルギーの自立した滋賀の農村づくり

- ・地域のエネルギーの自給率向上
- ・災害レジリエンスの向上

<推進方針の位置づけ> 「CO₂ネットゼロ実現と気候変動への適応～みらいをつくるしがの農林水産業気候変動対策実行計画～」の第2章の緩和策を推進する方針とする。

第2章 滋賀県CO₂ネットゼロヴィレッジ推進方針の目指すべき姿

1 農村地域における再生可能エネルギーの可能性

滋賀県の農林水産業の総消費エネルギー約73万MWh/年※のうち、再生可能エネルギーが利用されたのは約57MWh/年※と0.01%にも満たず、さらなる活用の余地がある。※：令和4年度エネルギー統計から推計

2 再生可能エネルギーの地産地消の実証試験

「地域課題の解決」

課題

- ・田んぼの法面の草刈が負担
- ・獣害被害

再生可能エネルギーで解決

- 法面に太陽光パネルを設置
 - ・草刈面積が減少
 - 維持管理の負担減少
 - ・電力を獣害対策に利用
 - 獣害被害が減少

法面の太陽光パネル

「地産地消」



農業用機械に利用



農業用水利施設の電源に



地域の行事に利用し活性化



地域の災害の備えに

< 効果 >

- ・農村ならではの地域課題を再生可能エネルギーで解決
- ・農業生産活動だけでなく、地域活動・防災活動などに利用
- ・地域住民が自らエネルギーを何に使えるか考え、実践していくといった行動変容

再生可能エネルギーが日常生活に溶け込んだ新たなカタチの農村振興の可能性

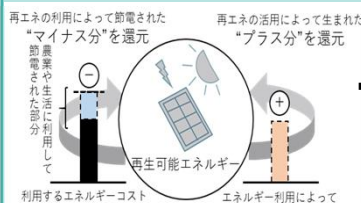


< 課題 >

- ・農業生産活動におけるエネルギーの需要が少ない
- ・使えきれない・貯めきれない余剰電力＝無駄が発生
- ・再生可能エネルギー設備の導入コストが高い

課題解決のためには…

- ・再生可能エネルギーの利用を通じた節電（マイナス分）や新たな価値（プラス分）による導入コストの回収
- ・「地域全体」で利用することで再エネ消費量の増加



→ 地域が主体的に再生可能エネルギーに取り組む体制づくりへ支援が必要

3 推進方針の目指すべき姿

視点

再生可能エネルギーを「地域の課題を資源と捉えて課題解決に」「売電ではなく地産地消へ」「地域住民が主体」となった取り組みによって

「生活に溶け込んだ形で」

CO₂ネットゼロ社会の農村地域を実現

第3章 滋賀県CO₂ネットゼロヴィレッジ推進方針の方向性

1 施策の推進方針「5つの方向性」

再エネを“つくる”

①再生可能エネルギー溢れる村づくり

- ・農村ならではの地域課題解決に着目した再生可能エネルギーの導入
- ・複数の再生可能エネルギーの面的な利用を推進

再エネを“つかう”

②持続可能なエネルギーシフト

- ・農業・農村における石油由来燃料から再生可能エネルギーへの転換
- ・地域活動や災害対策として地域の主電源とする取組を推進

再エネを“いかに”

③再生可能エネルギーを地域の魅力に

- ・農村の活性化策として再生可能エネルギーの利用を推進
- ・再生可能エネルギーの取組を通じて地域・農業の魅力を向上

再エネを“ひろげる”

④エネルギー自立型農村地域へ

- ・「地域エネルギー運営組織」による地域が主体となった取組を推進

再エネを“ささえる”

⑤再生可能エネルギーを実践する農村地域を伴走支援

- ・再生可能エネルギーに取り組む地域を伴走支援する体制の構築

再生可能エネルギーの地産地消事例

再エネを“ひろげる”

■ 再エネを通じた農村文化の継承と地域の活性化

・・・長浜市西浅井地域

地域内に太陽光パネルを設置し、E Vに充電し、地域の「ちょうちん祭り」で活用し、地域活性化に取り組む。太陽光パネルは地域住民に開放するとともに、電力を農業用機械に利用する。



再エネから充電したE V



再エネで提灯を点灯

再エネを“ひろげる”

■ 再エネを利用した生ごみ処理機による資源循環

・・・日野町西明寺地域

太陽光パネルを生ごみ処理機の動力源と利用し、地域の生ごみをたい肥化させることで、環境への意識を向上させる。たい肥は地域の畑に還元利用し、資源循環を図る。



生ごみ処理機



再エネのワークショップ

参考資料

各種データ、モデル地区での実証試験の詳細、様々なエネルギー資源の事例、用語説明



CO₂ネットゼロヴィレッジ
2050年の姿